

大河原町教育振興基本計画について

計画策定の趣旨

大河原町では大河原町経営計画(第6次長期総合計画)を基盤とし、2018年3月に「大河原町教育振興基本計画」(以下、第2期基本計画)を策定し、学校教育・生涯学習に関する基本方針を『「笑顔」「元気」「学び」～志を高め、学び継ぐ、ひとづくり』として、町の教育の充実を目指し取り組んできました。

この間、コロナ禍における社会環境の劇的な変化、将来的な人口減少、超少子高齢化、町民の生活形態・価値観の変化やニーズの多様化、児童生徒の学力及び体力・運動能力の維持向上、特別な支援を要する子供の増加、いじめや不登校への対応、国際化や高度情報化に伴う教育の展開、教職員の多忙解消などが、全体的な教育に関わる課題となっています。これらの課題を克服しつつ、人生100年時代を見据え、将来にわたって大河原町を存続可能な町にするためには、生涯学習を基盤とし、幼保(幼児教育)・小中(学校教育)から各世代への「学び」の連続と充実を推進していくための人材育成が必要となります。

このことから、第2期基本計画を継承しつつ、第6次長期総合計画〔後期計画〕(2023年度策定)と連動した施策を展開するため、「第3期大河原町教育振興基本計画」(以下、第3期基本計画)を策定するものです。

計画の位置づけ

本計画は、教育基本法第17条第2項に基づき、国・県の動きを踏まえ、2018年3月に策定した第2期基本計画の次期計画として、教育全般についての将来ビジョンを示すとともに、教育施策を総合的・体系的に位置づけ、実行することで町の教育のさらなる振興を図ります。

計画の期間

本計画は、2023年度から2027年度までの5カ年計画とします。各年度において「教育に関する事務の管理及び執行状況についての点検評価」等により、PDCAサイクルによる進捗管理及び点検評価を実施します。また、大河原町第6次長期総合計画(2023年度策定)との整合性を図り、本町における教育を充実させます。

年度(西暦)	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
国	第Ⅲ期計画				第Ⅳ期計画(策定中)					
県	第2期教育振興基本計画 2017～2026年度								第3期	
町	長期総合計画	第6次 前期計画				第6次 後期計画				
	教育振興基本計画	第2期 2018～2022年度			第3期 2023～2027			第4期		

町の教育の目指す姿

「おおがわらの教育」に関する基本方針

「笑顔」「元気」「学び」
～志を高め 学び継ぐ ひとづくり～

大河原町の教育振興を図るためには、地域・家庭・学校・行政がそれぞれの役割を担いながら、連携・協働し、それぞれの世代や立場に必要な人材を育成していく「ひとづくり」が不可欠になっています。

そのために第3期基本計画においても第2期基本計画を継承し、全ての町民が、「笑顔」で「元気」に「学び」続けられる町を目指し、「生涯学習の姿」「家庭・地域の姿」「子供の姿」「学校・教職員の姿」と対象を明確にするとともに、「ひとづくり」の実現に必要な施策と具策・目標値を示しています。これにより教育関係者ならびに、広く町民の理解と協力を仰ぎ、共に学び・高め合うことをねらいとしています。

目指す姿

1 生涯学習の姿

生き生きと学ぶ 町民

2 家庭・地域の姿

明るい 家庭
支える声が響く 地域

3 子供の姿

笑顔があふれ、
元気いっぱい、
学力を向上させる 子供

4 学校・教職員の姿

信頼される 学校・教職員

教育委員会の充実

2015年4月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正」により、大河原町では2016年度に「新しい教育委員会制度」がスタートしました。このことにより教育委員会は、さらなる教育の政治的中立と教育行政の安定性を確保し、多様化している町民のニーズに応えながら教育・文化の振興に努めるとともに、会議の公開など、開かれた教育委員会をいっそう推進します。

また、教育委員会事務局においては、教育行政における基本方針や重点施策をふまえ、家庭・地域・学校への支援や教育環境の整備・充実に取り組みます。さらに、事務の管理及び執行状況の点検・評価を的確に実施し、常に改善に努め、信頼される教育行政を実現します。

編集・発行

大河原町教育委員会 TEL: 0224-53-2742 FAX: 0224-53-3818
〒989-1295 宮城県柴田郡大河原町字新南19 <http://www.town.oogawara.miyagi.jp>

大河原町教育振興基本計画



〈第3期 2023年4月～2028年3月〉

大河原町教育委員会

おおがわらの教育

「笑顔」「元気」「学び」〜志を高め学び継ぐひとづくり〜

大河原町の姿4

基本的方向11

施策 36

主な具体策 52

1 生涯学習の姿

目標 生き生きと学ぶ 町民

- 持続可能な生涯学習の拠点整備
 - 町民が生涯にわたり楽しく学べる環境づくり
 - 「誰でも、いつでも」学べるセーフティネットの推進（学習拠点・居場所づくり）
 - 公民館・図書館等を活用した学習拠点づくり
- 伝統文化・芸術活動等の推進
 - 文化財や伝統文化等の保存・継承
 - 芸術文化に親しめる環境づくり

2 家庭・地域の姿

目標 明るい家庭 支える声が響く地域

- 学校・家庭・地域との協働による教育の推進
 - 地域学校協働活動の充実
 - コミュニティ・スクール事業との連携
 - 各種団体等と連携し、地域全体で子供を育てる体制づくり
 - 部活動の地域移行促進
- 家庭・地域の学びや活動の支援
 - 家庭教育、子育て世代等への学び支援
 - 各種関係機関と連携した支援体制の整備
- 地域の発展につながる多様な学びの提供
 - 時代に即したかつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
 - 各種団体やボランティアの育成と活動の推進

3 子供の姿

目標 笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供

- 【笑顔】豊かな心の育成
 - 夢を育む「志教育」の推進
 - 命を大切に教育の推進（道徳教育、防災教育）
 - 「共に学ぶ」特別支援教育の推進（インクルーシブ教育）
 - おおがわらの歴史や文化にふれ、郷土愛を育む教育の推進
 - 読書活動の推進
- 【元気】健やかな身体の育成
 - 「はやね・はやおき・あさごはん」による生活習慣の定着
 - 学校給食を中心とした食育の推進
 - 体力向上への取組の推進
- 【学力】確かな学力の育成
 - 基礎的・基本的な学習の充実
 - 活用する力を育成する取組の推進
 - 言語力の育成・言語活動の充実
 - 国際理解教育、情報通信教育の推進

4 学校・教職員の姿

目標 信頼される 学校・教職員

- 学校組織力の向上
 - チーム学校による創意・活力に満ちた学校づくりの推進
 - 保・幼・小・中連携教育、異校種間連携の推進
 - 学校・保護者による学校評価の推進
- 教職員の資質・指導力の向上
 - 町内教職員研修の充実
 - 校内実践研究の推進と各種研修機会提供の充実
 - 教職員の多忙軽減の推進
- 安心して学べる教育環境づくりの推進
 - いじめ・不登校対策、教育相談等の充実
 - 学びのセーフティネットの構築（就学援助、育英・奨学金等）
 - 学校危機管理体制の充実（安全教育）
 - 家庭・地域への情報発信の推進
 - 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用

1. 公民館を起点とした「にぎわい創出」の自主事業展開
2. 「本館」と「絵本と学びのへや」を活用した事業展開
3. 「放送大学」を活用した、生涯にわたって学び続ける機会の提供、P R 活動
4. 公民館主催「土曜子供塾」
5. 文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進、文化財展示室の設置
6. 無形文化財保持団体の活動の場の拡大、大河原小3年音楽で「小山田やすとこ」を学ぶ時間の設定
7. えぞこホールとの連携による芸術文化事業の推進
8. 郷土愛を育む「親子町内史跡巡り」等の開催
9. コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の充実に向けた支援
10. ボランティアバンクの再整備とよりよい運用
11. 放課後子供教室事業による子供の居場所づくりの推進
12. 子ども会育成会連絡協議会の活動支援
13. 部活動地域移行促進
14. 学校や保育園、幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催
15. 駅前図書館を利用した家庭教育支援事業
16. 中学生を対象とした子育て理解講座の開催
17. 子育てサポーター、家庭教育支援チームの活動の場の拡大、活動支援
18. 公民館事業・教室参加者の満足度向上を目指す事業推進
19. ジュニア・リーダーの育成と活動支援
20. 青年会活動への助言と支援
21. 地域資源(人的・物的)資源を生かした昆虫展の充実
22. 高齢者のための生きがいづくり事業の推進
23. 町民文化祭の充実と文化協会の活動支援
24. 市民団体(NPO等)との協働・活動支援
25. 10歳のつどいや立志式、志教育講演会等の実施、おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
26. 「全学級道徳の日」を中心とした道徳的実践力の育成
27. 防災訓練等を通じた自助・共助の実践力の育成
28. 早期発見早期支援事業による適切な就学指導の充実と研修会の実施
29. 町教員補助員によるきめ細やかな支援の充実
30. おおがわらの暗唱読本、社会科副読本、おおがわらの先人集事業の活用継続と改訂
31. 学校司書補助員、駅前図書館、暗唱読本を活用した「読書のすすめ」
32. 「明日青のつどい」による健全育成体制の継続
33. 給食センターの活用や栄養教諭の学校訪問指導による食育の充実
34. 仙台大学との連携事業、部活動等を通じた体力・運動能力の向上
35. 学力向上策「対話的な学び」のある授業と「指導と評価の一体化」の推進
36. 全国学力・学習状況調査の全国平均正答率を上回るための全国学力調査問題の活用
37. おおがわら算数チャレンジ・数学オリンピック事業の継続
38. 暗唱読本、「小学生の英単語」等を活用した言語活動の充実
39. 外国語教育充実に向けたALT 配置継続と活用の充実
40. ICT 教育への先進的取組(タブレットの充実活用と ICT 支援員配置による)
41. 学習評価を中核にしたカリキュラム・マネジメントによる開かれた教育課程の推進
42. 「子どもが行きたくなる学校づくり」推進
43. 幼・保・小連携による接続カリキュラム、スタートプログラムの実践
44. コミュニティ・スクール活動の充実 ※生涯学習との連携
45. 大学教授招聘による質の高い校内研修の実施
46. ICT 機器等の整備、部活動支援員の配置
47. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー活用の充実
48. おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続
49. 各種援助・支援等の適正受給及び「学び支援教室」事業の継続
50. 安全担当主幹、防災主任による学校危機管理マニュアルの整備、防災訓練、体制の確立
51. 学校だより、ホームページ、緊急メール配信、広報おおがわら等による積極的な情報発信
52. 学校施設の老朽化対策と施設安全管理点検等の実施

教育を取り巻く課題

- 社会的課題
- 職業種の多様化、新たな職業種の創出
 - 超少子高齢化
 - 情報化、国際化
 - 震災からの復興

- 家庭・地域の課題
- 家庭生活、価値観の多様化
 - 子供の貧困・虐待問題
 - 家庭・地域の教育力の低下
 - 地域コミュニティの再生・構築

- 幼児教育の重要性
- 文化財、伝統文化の保存と継承
- 健康寿命

- 学校の課題
- いじめ、不登校等の増加
 - 教職員の多忙化
 - 教職員の資質向上、技術技能の継承
 - 自尊意識や規範意識の希薄化
 - 防災教育、安全・安心な学校
 - 教育の多様化・情報化
 - 特別な支援を要する児童生徒の増加
 - 思考力・判断力・表現力の育成
 - 施設設備の老朽化